

ている。

③久留米絣、備後絣、倉吉絣などと通じた点はあるが常民生活の中にとけこんだ親しさを感じとることができる。

現在機械織りになっている絣の前身である手織絣は温存して伝承してゆきたいものである。

C-2 民俗服飾の中の伊予絣

—ふとん絣文様によせる—考察—

聖カタリナ女短大 白石 方子

1. 伊予絣の中でふとん絣、ふとん柄と称せられるものの文様を見るに、絵絣と称する紺と白の織りなす素朴な美しさ、自然の野山から人形昔話から時代の流れを多くとり入れ、さまざまな考えの中から織り出されたその構成力のたくましさ、手織り技術の中に織り込まれた優秀さは驚嘆される。魅せられるものである。現在ではその姿を消しているといってもよい位であるが繊維事情、機織の変化の中に、残しておきたいものと研究を続けているものの一部の考察である。

2. 資料は愛媛県内各地より蒐集。

研究家の援助、民芸館、染色試験場、短大学生、医師、婦人会、各地域の一般家庭より援助を得たもの。

3. ①或地域によっては柄が一定していることが多かった。

②昔から縁起のよいものとされているものを織り出し